

資料 トランスジェンダーの“性別のプライバシー”に関する情報について

2025 年 5 月

T ネット

トランスジェンダーの人々にとって、性別に関する情報は重大なプライバシーであり、機微情報としての扱いが必要なものとなり得ます。本資料では、このような情報を3つに分けて説明します。

(1) 周囲から見なされる性別とは異なるアイデンティティを持っている当事者について

例えば… 周囲から女性と認識されているが、男性の性自認をもつトランスの男性
周囲から男性と認識されているが、ノンバイナリーである人 など

【機微なプライバシー情報】

当事者の性自認についての情報

【扱いに気を付けるべき理由】

周囲から認識されている性別とは異なるアイデンティティをもつという情報を知られることは、トランスジェンダーであることを知られることになる。それは、差別やハラスメントを招く恐れがある。

(2) 出生時の割り当てとは異なる性別で社会生活を送っている当事者について

例えば… 出生時の割り当ては男性だが、女性として生活しているトランスの女性 など

【機微なプライバシー情報】

出生時に割り当てられた性別、および性別を移行した過去の経験

上記に加えて、法的な性別変更をしていない場合については、戸籍などの登録上の性別

【扱いに気を付けるべき理由】

トランスジェンダーであることを周囲にカミングアウトせず、出生上の割り当てと異なる性別で生きている当事者の場合、出生上の性別（法的な性別変更をしていない場合は戸籍などの性別）を知られることは、トランスジェンダーであることを知られることになる。それは、差別やハラスメントを招く恐れがある。

また、そうした当事者にとって、出生上の性別を意図せず知られることは、苦勞して築いた女性として、または男性としての人間関係を破壊され、安寧な生活環境を奪われることを意味する。

(3) ホルモン治療や外科手術などを受けている当事者について

注：(1) の場合や (2) の場合と重なることが多い

例えば… 女性ホルモンの投与を受けたトランスの女性
乳房の切除手術を受けたトランスの男性 など

【機微なプライバシー情報】

治療についての情報、および身体の状態についての情報

【扱いに気を付けるべき理由】

性別適合医療やそれに付随する身体の状態は、機微な医療情報に該当する。特に性器の状態など、通常の生活において隠されるはずの情報を他人にさらされることは、重大な精神的苦痛を与える。また、医療情報そのものが、出生時に割り当てられた性別と性自認との不一致や、過去に性別を移行した経験を明らかにするものとなり得る。

以上